

令和6年度第1回埼玉県在宅緩和ケア推進検討委員会(1/29開催) における主な意見

【議事1 在宅医療及び在宅緩和ケアの実態調査の結果報告について】

●緩和ケアの実施率の向上について

- ・緩和ケアを新たに始めようとする医者も一定数いると思うが、マンパワー不足を感じる。経験豊富な講師を招いて研修会を開催する場合、市中の病院や診療所に講師謝金を助成することはないのか。
- ・蕨戸田地区では、「緩和ケアカフェ」という会議を定期的で開催し、顔の見える関係を意識している。基幹病院の先生との繋がりを形成し、気軽に相談できる体制をつくっている。
 - ▶訪問看護ステーションも経験豊富で実践的であるため、病院も含めて相談しやすい環境づくりが必要。
また、知識が充足してからとなるとなかなか緩和ケアを開始できないため、勉強しながらでも開始することも必要と感じる。
 - ▶多職種連携は広いエリアでなく、地域で顔の見える関係が大切。
薬剤師会では緩和ケアの研修会を毎年開催しており、研修会には看護師も参加する。看護師の一助となるだけでなく、顔の見える薬剤師が増加することを期待している。
- ・緩和ケアというが、患者の状態も様々であり、どこまで診ることが必要なのかという問題もある。
様々な個別の事情に対し、一緒に考えていただける相談体制や情報交換ができる場所が必要。
- ・委員会で作成したマニュアル等をどのように発展させるのか、緩和ケアの情報がアクセスできる場所が必要。
地域の先生と繋がりを持ち、専門の先生に相談できる体制は大事。
- ・退院前カンファレンスの逆に、病院側が在宅の現場に赴くという選択肢があってもよいのではないか。現場に行くことで情報交換の場となるし、県としても補助金等で推奨していただくと現場に行きやすくなる。
- ・診療所が緩和ケアまで手を広げようにも、何か相談できるサポート体制が必要に感じる。病院側はサポートするため顔の見える関係を築く必要があるが、気軽に相談できないのであれば、そのハードルが低くなるツールがあると相談しやすい。

- ・医者の数に地域差があり、緩和ケアにも当てはまるように思う。県北地域では医者が緩和ケアまで実施することはなかなか厳しいと思うが、訪問看護師も可能な限り協力させていただきたい。
- ・緩和ケアの研修会が拠点病院や看護協会でも実施されている。研修会に参加するだけでは顔の見える関係は難しいところもあるので、看護の方でも拠点病院や緩和ケアの知識が豊富な方に相談できるネットワークが必要と感じた。

●緩和ケアの知識の充足について

- ・知識が充足していない理由を確認したい。緩和ケアのマニュアルではなく OJT や相談体制が必要か確認できる。

・先生の偏在化を感じているため、埼玉県全体ではなく、人口あたりに区分することで、全体の知識を充足させるのではなく、スポット的に教育することもできると思う。

・通院可能な状態の方を対象にクリニックで緩和ケアを実施している先生は、拠点病院にも在宅にもつながりがある。したがって、そのような先生にも協議会に参加して頂き、連携の形を共有することも一つの方法だと思う。

【議事2 PCA ポンプにおけるオピオイド投与量換算表について】

●資料 2 の内容について

- ・資料のとおりだと思う反面、このとおりオピオイドを扱える薬局が県内にどれくらいあるのか。

▶アンケート調査の結果をまとめ、次回報告したい。

●ヒドロモルフォンの投与指示・投与例について

- ・容量や流速を倍々にすると 10ml容量のシリンジポンプ以外でも使用可能と説明があったが、厳密に計算すると 9.6ml容量が正しいため、容量等を数倍に換算すると誤差の範囲が広がるのではないか。

▶あくまで基本的な考え方を示したものと理解いただきたい。

持続皮下注でオピオイドをこれから使用する医者等の一助となるものと考えていただき、実際には患者ごとに換算比等で計算して使用するものとする。

- ・ポンプの容量は比較的大きいものを使用することが多く、100mlが比較的多いと思う。少量だと週に2～3回訪問する必要があり、訪問代と薬代で患者の負担が大きくなる。可能な限り訪問回数は減らしている。

- ▶バリエーションが多く換算表を複数作成すると資料が膨大となるため、考え方として容量が少量のものを一例として作成している。
- 在宅の場合でもオピオイドをスイッチングした際には、翌日に患者の様子を電話等で確認することは、医療行為として必須と思う。

【その他事項】

① 電動式 PCA ポンプの取り扱い状況

- ・想像より電動式 PCA ポンプの取り扱いのある薬局が多く安心できるが、PCA ポンプは薬局が用意すると円滑に患者に使用できると思う。
- ▶ポンプを使用するための研修会も開催しているため、今後扱える薬局は増える見込み。比較的な安価なポンプもあるため、普及されるように試みたい。